

第 2 次藤沢市都市農業振興基本計画に係る今後の取組について

1. 担い手の高齢化や労働力不足を解消するための取組の 1 つとして、スマート農業を推進していく必要があると考えますが、そのために、どのような取組が必要だと思いますか？

- 補助金の確立支援
 - ①農機の運転アシスト、自動走行
 - ②水管理の自動化
 - ③除草等、ロボットによる自動化
 - ④ドローンなどによる空中散布の自動化
- 1 枚の田の広面積化
- 機械導入の補助、機械管理システムの構築
- スマート農業を推進していく前に、まずは何故、いま担い手が増えないのか。ましてや農家の子息いわゆる農業後継者が何故、農業を継がないのか。その大きな要因は、農業所得が低すぎるためと思います。
- やり甲斐がある＝所得に満足。緑を守る。土に触る。自然を守る。要は経営が成り立つことが必要と思われます。であれば、担い手（農業後継者）も増え、労働力不足の解消していくものと思われます。
- 新規就農者は比較的若い世代が多く、まだこだわりも確立されていないので、スマート農業に対する間口は広いと思われます。露地、ハウスそれぞれにどのような取組みが出来るのか、それに対する補助事業がどのくらいあるのか周知する必要があると思われます。畑に電気を通すのにも使える補助があると助かります。
- スマート機器の導入には費用対効果が求められる。国の補助事業の積極的な活用や市単独の補助事業があると有効である。レンタルやリースなどの導入しやすい条件を整えることも効果的と思われる。
- スマート機器を使いこなすための技術支援が必要である。
- 現地実証等により、生産者に新たなスマート機器（ドローンや直進アシストトラクター、除草機器など）の情報提供を行う。

2. 有機農業の取組面積を拡大するため、どのような取組が必要だと思いますか？

- ・有機農業指導員の育成
- ・有機農産物の流通、加工、小売等の事業者と連携したアピール等の支援
- ・地力維持から稲わらのすき込みだけでは足りないので、堆肥の確保（畜産農家が減少している今確保出来るか？）
- ・最大の問題は除草の作業である人力を使うことが難しい昨今、除草機の導入などお金にかかわる問題が数多くでる。
- ・作業面でも色々と多くなり、労力が必要となり人的確保が出来るのか？
- ・病害虫の観点からは、畔の草刈り、放棄地の草刈り、解消が必要。
- ・有機農業の実践者は、全てを理解し勉強して取り組んでいる方々だと思います。しかし、現実には「にわか有機農業者」が多く見受けられます。もっと事細かく技術指導し育て上げたうえで、新規取組や面積拡大を進めていくことが必要だと思います。
- ・有機の技術を慣行で営農している方に教授していく必要があると考えます。勉強会、セミナーなど多く開催するなど。また、低コストで営農できれば移行してくと思われれます。資材・堆肥などの購入費用の補助など。あるいは畜産農家への堆肥増産の補助など。
- ・有機農業の技術研修会の開催。講演や圃場見学、意見交換会など。慣行農家にも参加を呼び掛ける。
- ・有機 JAS 取得、機械導入に対する補助事業があると有効。

3. その他（第2次藤沢市都市農業振興基本計画の取組を進めていくにあたり、ご意見等がありましたら、ご記入ください。）

- ・遊休農地解消のため、罰則金を高額にして耕作者に支援の拡充を計る。
- ・藤沢市内の農業者は多種多様な経営体が多く、品種によれば少人数のこともあります。同一（種）経営の多者や少者、部会等の立ち上げ、3人以上など要件（厳しい制限）を問わず補助や支援（国や県など）が必要と思います。
- ・畝っているだけで作付けされていない畑を散見するので、有効利用するために地主さんを変えていく必要があると考えます。何故貸せないのか把握することが必要です。
- ・農地を確保するため、使用していない施設も含めた遊休農地解消に対する支援の拡充が必要と考えます。